

味の素食の文化センター研究成果概要報告書

<2022 年度研究助成>

**世界農業遺産が小規模生産者の食糧生産・消費活動に与える影響に関する人類学的研究**

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

北野真帆

2025 年 6 月 30 日

<2022 年度研究助成>

## 世界農業遺産が小規模生産者の食糧生産・消費活動に与える影響に関する人類学的研究

北野真帆

(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

### 1. 導入—世界農業遺産と地域社会

本研究の目的は、過疎化が著しい日本の山間部に位置する世界農業遺産認定地域における、日常的で小規模な食料生産、生産物の贈与交換および消費の実態を明らかにすることにある。

本研究が対象とするにし阿波地域は、美馬市、東みよし町、つるぎ町、三好市という2市2町で構成されている。2018年に世界農業遺産「にし阿波の傾斜地農耕システム」に認定された。

#### 1-1 世界農業遺産とは

世界農業遺産とは英語で Globally Important Agricultural Heritage Systems (略: GIAHS) と呼ばれる。ヨハネスブルクで開催された「持続可能な開発に関する世界首脳会議」を契機に(遠藤 2021: 5) 2002年に開始された、国連食糧農業機関 (FAO) が世界的に重要だとされる伝統的な農業システムを認定する仕組みである。この制度では、何世代にもわたって社会や環境に適応しながら形づくられてきた農業上の土地利用、伝統的な農業とそれに関わって育まれた文化、景観、生物多様性などの総体を、農業システムとして認定する(農林水産省 HP)。つまり、農業生産との関わりを重視して、諸要素をシステムとして捉える(武内 2013)。2025年5月現在、世界で28カ国95地域が認定されており、日本国内では15地域が認定されている。日本の認定地域数は、中国に次いで世界で2番目に多く、GIAHS 認定地域における効果的な保全活動の事例を示すことが求められている。

GIAHS の特徴は、現代に応じて、農業に関する知識や実践が変化することを重視することにある。GIAHS という概念を提唱したパルヴィス・クーハフカンが「化石化しない保全 (Koohafkan 2016)」と呼ぶ、環境や社会の変化に伴って農民が食糧生産システムを変えていくことを積極的に評価する

保全方法が推奨される。このような保全のあり方を、動的保全 (dynamic conservation) と呼ぶ (cf. 武内 2016)。そのため、伝統的な食糧生産システムの保全を目的とする GIAHS であるが、昔の農業や農法を「そのまま」残したり、博物館に展示品を陳列したり、文献資料として保存することは、保全の主な手段にはならない。この点は、UNESCO の世界遺産制度の目的と手段との大きな違いとして強調される (cf. 遠藤 2021: 5)。これは食料生産システムを、農民による知識やスキルの試行錯誤の結果として変化していくことを前提視していることに起因する。つまり GIAHS とは、社会的・経済的・生態学的に変化しながらも継承されている「生きている遺産」として、食糧生産に関わる知識や技術を保全しようとする取り組みである。

#### 1-2 世界農業遺産認定の効果

世界農業遺産では、伝統的な農業システムが人々の生計維持に寄与するかどうか重要な点のひとつとして取り上げられている。そのため、GIAHS の経済効果は注目されてきた。例えば国際連合食糧農業機関 (FAO) は、GIAHS の経済効果の測定を三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社に委託した。だが、日本の認定地域では、農林水産業・交流産業の両産業において、目立った経済的効果がないことが明らかになった (Mitsubishi UFJ Research and Consulting 2022)。だが、にし阿波地域における修学旅行を対象とした農泊体験事業は、GIAHS 認定による経済効果を示すビジネスモデルになりつつある。たとえば GIAHS 認定時の2018年には受入学校数21校、受入泊数が2,760泊だったのが、5年後の2023年には受入学校数が32校、受入泊数が6,000泊と大幅に増加した。宿泊費・体験や土産購入のために消費された総額は、年間1億円にもものぼる。このように GIAHS 認定後の農泊体験事業は、農家の収入源としての重要性

を高めている (Naito, Tonotani & Watanabe 2023)。

とはいえ、GIAHS 認定が農業システムにもたらすさまざまな影響を総合的に測定する方法は定式化されていない (香坂・内山 2016)。この点を鑑みれば、農業システムの持続可能性を考える際には、GIAHS 認定の経済効果のみに焦点を当てるのではなく、農業システムを構成する社会・文化・生態的側面といった非経済的な要素にも注目する必要がある。たとえば地域住民による農業についての価値観や意味づけに関する環境社会学的な研究は、GIAHS 認定が農業継続の意思を強化する契機になっていることを明らかにした (岩男 2021)。また山口 (2024) は、農業実践者が伝統農業に対してどのような考えを有し、何を残していきたいと考えているのかに注目した。そして人びとが伝統農業そのものではなく、土地や伝統作物、日常食といった多岐にわたる「暮らしそのもの」を継承したいと考えていることを明らかにした。

また、農業システムの保全が、生態系あるいは生物多様性の維持に注目した研究も行われている。そこでは人びとがカヤバ (共有地) として利用してきた草地環境と生物多様性のポジティブな関係が示されている (広瀬ら 2018)。

これらの先行研究は、農業実践者の意識を半構造的インタビュー等の聞き取り調査をもとに明らかにしてきた。だが、聞き取り調査には「被調査者のバイアス」を収集してしまうという欠点がある。たとえば、この地域の農家はしばしば小規模な農業実践の目的を「自給自足」と説明する。なぜなら農家自身は「自身で食べるものを作る」という価値観を持っているためである (cf. 岩男 2021)。それゆえ行政もこうした自給自足言説を用いてきた (徳島剣山世界農業遺産推進協議会 HP)。だとすれば、こうした地域における GIAHS 認定が農業システムに与える影響を評価するためには、「自給自足」と語られるような販売額が 0 に近いような極小規模の食糧生産や消費行動の実態を明らかにする必要がある。そもそも農業実践者の活動が農業システムの維持・再生産に寄与している程度を明らかにするためには、環境に働きかけている行為者の価値観だけでなく、「行為」の積み重なりで焦点を当てる必要がある (内藤・石川 2023)。だが、そうした極小規模の食糧生産や消費行動についての実態は把握されてこなかった。

そこで、本研究では、徳島県「にし阿波の傾斜地

農耕システム」の認定地域の一部である三好市東祖谷地域を対象に、市場への販売額がほとんどないか 0 の「極小規模生産者」による食糧生産、贈与交換、消費の実態を明らかにする。

## 2. 調査地概要／調査方法

### 2-1 徳島県三好市東祖谷

この地域は、旧東祖谷山村にあたる (図 1)。面積は 228.62 km<sup>2</sup>で、気象庁の 1991-2020 年の記録によると年間平均降水量が 2437.3 mm という多雨地域である (気象庁 HP)。集落の数は 44 集落で、多くが標高 400-800m の山の中腹より上に位置する。

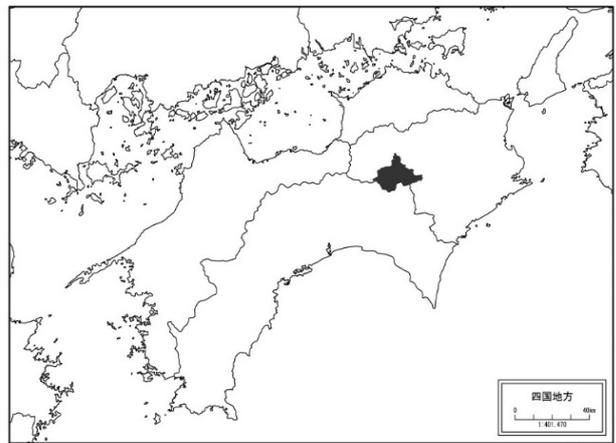


図 1 東祖谷の位置

当該地域には、日本最大の破砕帯が走っており、地震や大雨による崩落や地滑りが起こりやすい。安息角の場所に分布しているこの地域の集落は、大規模な地滑り跡地に立地している可能性がある。総人口は 1,029 人で、世帯数が 650 戸である (2023 年 9 月時点)。65 歳以上の割合が 58.9% (2023 年 4 月時点) の超高齢社会である。

この地域は、1965 年以前は葉煙草栽培を中心とする農業が基幹産業だったが、それ以降は公共事業が増加し、建設業が栄えた (表 1)。2005 年以降は、就業者数の半数以上が第三次産業に従事するようになり、現在では、多くの人々が農業以外の職業に従事している。

表 1 東祖谷の産業別就業者数の推移

	総就業者数	農業	割合 (%)	林業	割合 (%)	建設業	割合 (%)	第3次産業	割合 (%)	その他	割合 (%)
1970	2310	753	32.6%	423	18.3%	481	20.8%	503	21.8%	150	6.5%
1975	1723	339	19.7%	376	21.8%	462	26.8%	424	24.6%	122	7.1%
1980	1853	353	19.1%	163	8.8%	658	35.5%	510	27.5%	169	9.1%
1985	1476	194	13.1%	105	7.1%	590	40.0%	408	27.6%	179	12.1%
1990	1281	93	7.3%	52	4.1%	509	39.7%	430	33.6%	197	15.4%
1995	1143	55	4.8%	48	4.2%	487	42.6%	406	35.5%	147	12.9%
2000	966	40	4.1%	31	3.2%	386	40.2%	420	43.5%	87	9.0%
2005	705	19	2.7%	19	2.7%	250	35.5%	372	52.8%	45	6.4%
2010	582	9	1.5%	21	3.6%	182	31.3%	326	56.0%	44	7.6%
2015	507	22	4.3%	18	3.6%	135	26.6%	295	58.2%	37	7.3%
2020	403	7	1.7%	17	4.2%	99	24.6%	239	59.3%	41	10.2%

だがこの地域を訪れると、傾斜地に張り付くように畑が存在し、季節によっては畑のすぐ側にコエグロが作られている。

2-2 研究方法・調査方法

本研究では、日本の世界農業遺産認定地域における、小規模生産者による食糧生産・消費行動の動態を明らかにする。そのために、「にし阿波の傾斜地農耕システム」認定地に含まれている徳島県三好市東祖谷において、地域住民の食料生産と消費活動に関する参与観察とインタビュー調査を行った。調査期間は、2023年4月から2024年12月まで（断続的に合計11ヶ月間）である。

3. 東祖谷における極小規模の食料生産

傾斜地で耕作する際には、棚田や段畑といった水平面を作ること、土壌流亡を防ぐことが多い。しかし、にし阿波地域では傾斜地を残したまま耕作することができているという点が、世界農業遺産の特徴として評価された。具体的には20cmほどの表土層（A層）を維持・創出する仕組みが育まれてきた。その仕組みは、①採草地で採集した敷草（カヤ）の施肥、②伝統的な農具で深く耕起することで礫を砕きシルト・粘土を生産すること、③流亡した土壌を伝統的な農具で上に戻す（ツチアゲ）ことによって構成されている。ツチアゲには、サラエと呼ばれる5本の歯がついた伝統的な農具が不可欠である。この農具は畑地の傾斜や農具の利用者の体格によって、歯と柄の角度や柄の長さが調整されている（北野・内藤 2020）。

この地域では、秋に採草地で収集したススキを中心とする敷草を円錐状に積み上げて乾燥させた後、円錐状に干し敷草を積んで保存する。これをコエグロと呼ぶ（写真1）。そして春と夏に敷草を細かく刻んで施用する。畑にまかれた敷草には、土壌流亡を劇的に抑える効果がある。その後、敷草はゆっくり堆肥になる。このように敷草の施用は傾

斜地農業システムのなかで重要な役割を果たしている。



写真 1 東祖谷におけるコエグロ

以下では三好市東祖谷 K 集落を事例に、極小規模の食糧生産の実態を詳述する。東祖谷 K 集落は、祖谷川をはさんで3つの部落に分かれている。徳島県三好市「人口統計 2023」によると、2022年11月には表2のような世帯数、人口になっている。

表 2 K集落の部落別概要

部落名	世帯数	人口	高齢者率
K集落 (A)	18	30	73.3%
K集落 (B)	17	32	65.6%
K集落 (C)	10	24	45.8%

ここでは K 集落（以下 A 部落と称す）に焦点を当てて、誰がどの程度何を生産しているのかを明らかにする。対象は、調査者が滞在中に A 部落に居住していることが確認できた17世帯である。

A 部落では、全世帯の8割が耕作をしていた。耕作者は主に定年退職後の人々で、彼らのかつての職業は建設業や公務員といった非農家であった（表3）。彼らの多くは、農家をしていた親世代が所有していた畑を相続し、耕作していた。つまり彼らは葉たばこを中心とした商業的な農業を行っていた親世代から畑地を相続した非商業的な耕作者である。また、現在は A 部落に居住せず、通いで農業を行っている世帯を一事例確認した。彼らは、2ヶ月に1度の頻度で部落を訪れ、比較的作業行程が少ないジャガイモなどを栽培していた。

次に耕作面積について説明する。A 部落の耕作面積は平均で6a (612 m<sup>2</sup>)、最大で23a (2320 m<sup>2</sup>)であった（表3）。

次に、この地域で栽培されている作物について説明する。この地域では、少量多品目の農作物を栽



大根の生育が遅かったため、世帯 B が大根を 3 本

表 5 A 部落における世帯ごとの食事内容

世帯	世帯構成	日付	朝食	昼食	夕食
B	60代夫婦	2024/11/17	牛乳、納豆ご飯(納豆・ネギ)、味噌汁(豆腐・ネギ・アサゲ)、白菜の漬け物、バナナ	味噌汁(ネギ・豆腐)、漬け物(にんじん、梅、キャベツ)、白米	ずき焼き(牛肉、こんにゃく、豆腐、大根)、白菜の漬物、リンゴ、白米
		2024/11/18	牛乳、バナナ、食パン	ベーコン、キャベツ、ミニトマト、納豆味噌汁(ネギ・卵)	鶏(鶏バラ、豆腐、白菜、えのき、きのこ)
		2024/11/19	味噌汁(豆腐、豆腐、大根)、納豆ご飯(納豆・ネギ、海苔)、漬け物(キュウリ)、トマト、牛乳、バナナ	鶏(鶏バラ、豆腐、白菜、えのき、きのこ)、ウチメイト、白米	ハンバーグ(タマネギ、肉)、ケチャップスパゲッティ、トマト、キャベツ、キュウリ、ジャガイモ
		2024/11/20	食パン、バナナ、牛乳	鶏大根(大根、鶏)、豆腐(ネギ)、ツツマイモ	鶏大根(大根、鶏)、うどん(ネギ、あげ)
		2024/11/21	納豆ご飯(納豆・ネギ)	味噌汁(ジャガイモ、干し大根、にんじん、厚揚げ)、白米	鶏汁(にんじん、大根、ネギ、しめじ)、白米、梅干、ネギ、納豆、卵
		2024/11/22	納豆ご飯(納豆・ネギ)	焼きそば(ネギ、ベーコン、卵)、味噌汁(大根の葉、揚げ)	鶏の唐揚げ、香腸サラダ(ケラクラ、キュウリ、ハム、にんじん)、豆腐(ネギ、ツツマイモ)
		2024/11/23	納豆ご飯(納豆・ネギ)、先日の味噌汁の残り(にんじん、大根、ネギ、しめじ)、漬け物(にんじん、梅干)	うどん(ネギ、かまぼこ、揚げ)	フライドポテト、焼き魚、味噌汁(大根、鶏肉)
2024/11/24	ND	カレー(ジャガイモ、にんじん、タマネギ、らっきょう)、サラダ(たまご、キュウリ、ミニトマト、ハム、キャベツ)	ND	ND	
C	80代女性	2024/11/17	白ご飯、味噌汁(豆腐、卵)、ウィンナー、漬け物(キャベツ、らっきょう)、おひたし(小松菜)	パン、ゆで野菜(キャベツ)、いりこ	春雨スープ、いりこ、ゆで野菜(白菜、キャベツ、ピーマン、にんじん、タマネギ)
		2024/11/18	パン、ゆで野菜(キャベツ、白菜、ピーマン)、おひたし(小松菜)、お豆腐(大豆、キャベツ、あんこ)、ウインナー、ゆで野菜(キャベツ、白菜、ピーマン、にんじん、タマネギ)	お豆腐(大豆、キャベツ、あんこ)、ウインナー、ゆで野菜(キャベツ、白菜、ピーマン、にんじん、タマネギ)	ピント(魚、ゆで野菜(キャベツ、タマネギ、ニンジン))
		2024/11/19	味噌汁(豆腐、豆腐、えのき)、いりこ、白米、ゆで野菜(キャベツ、タマネギ、ニンジン)	魚の唐揚げ、ゆで野菜(タマネギ、ニンジン、キャベツ、小松菜)	うどん(ネギ、湯揚げ)、ゆで野菜(小松菜、タマネギ、ニンジン、キャベツ)
		2024/11/20	餅、白米、味噌汁(タマネギ、豆腐、豆腐)	魚の唐揚げ、ゆで野菜(タマネギ、ニンジン、キャベツ、小松菜)	カボチャ、ウチメイト、小松菜
		2024/11/21	味噌汁(豆腐、えのき、白菜)、白米、たまご、ちくわ、キャベツ	パン、ハム、小松菜、カボチャの唐揚げ	うどん(ネギ、湯揚げ)、鶏、ゆで野菜(大根、ネギ、小松菜、カボチャ、キャベツ、ニンジン)
		2024/11/22	餅、卵、味噌汁(タマネギ、白菜、きのこ)、ゆで野菜(キャベツ、らっきょう、ニンジン)	味噌汁(梅、いりこ)、漬け物(らっきょう)	鶏(鶏バラ、ネギ、かつお、みりん、みりん、ゆで野菜(白菜、ニンジン)、白米)
		2024/11/23	味噌汁(豆腐、タマネギ、大根、湯揚げ)、ウチメイト、キャベツ、白米	パン、コーヒ、キュウリ、リンゴ	味噌汁(豆腐、白菜、湯揚げ)、たまご、ウィンナー、ゆで野菜(キャベツ、ニンジン)
2024/11/24	昨日の味噌汁(豆腐、白菜、湯揚げ)、ウチメイト、小松菜、ちりめん、白米	ピントカレー、白米、ツツマイモ	ND		
E1	80代女性	2024/11/17	白米、味噌汁(ネギ、豆腐)、卵、漬け物(にんじん、大根)、キャベツ	おかしなツツマイモ、お菓子少々	豆腐炒め、キャベツ、漬け物(にんじん)
		2024/11/18	白米、味噌汁(ネギ、豆腐)、納豆(キャベツ、卵)	カボチャ、リンゴ、白米	白米、カボチャ、きつまいも、豆腐
		2024/11/19	餅子、粉とネギ、はちみつ、味噌汁(えのき、かぶら、卵)	ジャガイモ、うどん(ネギ)、白米、ジャガイモ、リンゴ	白米、魚、炒め物(白菜、にんじん、きのこ)、リンゴ
		2024/11/20	味噌汁(ネギ、お餅)、タマネギと餅の炒め物、漬け物(大根)、白米	ジャガイモ、白米、漬け物(大根)	カボチャ、ウチメイト、小松菜、白米
		2024/11/21	味噌汁(豆腐、えのき、白菜)、たまご、ちくわ、キャベツ、白米	パン、ハム、小松菜、カボチャの唐揚げ	魚(焼、大根、ニンジン、きのこ)、白米、ジャガイモ、漬け物(大根)、いりこ
		2024/11/22	白米、餅、味噌汁(ネギ、白菜)	餅子、粉とネギ、小松菜	豆腐(ネギ)、唐揚げ(ニンジン、大根)
		2024/11/23	春雨スープ、納豆、ハム、白菜、漬け物(大根、ニンジン)	春雨スープ、餅、白米、漬け物(大根)	お好み焼き(キャベツ、タマネギ、お肉)
2024/11/24	味噌汁(豆腐、ネギ、なすび)、白米、漬け物(大根)	ちりめん(ネギ)、ツツマイモ	豆腐、炒め物(白菜、きのこ、厚揚げ)、白米、魚、漬け物(大根)、りんご		
Y	60代夫婦	2024/11/17	(朝)シチュー(ジャガイモ、カボチャ、エビ、にんじん)、食パン、コーヒ(米)味噌汁(にんじん、豆腐、白菜、もやし、ネギ)、ピレコ、オクラ	にぎり寿司	唐揚げ、キャベツ、餅の味噌汁(しめじ、豆腐、白菜、もやし、和え)
		2024/11/18	(朝)食パン、コーヒ(米)味噌汁(カボチャ、にんじん、しめじ、豆腐、白菜)、フレッシュカブ、じゃがいも、キャベツ、オクラ	18日朝の味噌汁(カボチャ、にんじん、しめじ、豆腐、白菜)、ピレコ、お肉、味噌汁(ジャガイモとにんじん)、ちくわの磯辺揚げ、しば漬け、ミニトマト	(朝)あじの唐揚げ(購入品)、マヨネーズ炒め(ポン酢、ソース、ケチャップ) 昼(お肉、お肉、お肉(チンゲン菜、ソース、ケチャップ)、塩ラーメン、えんどうの残り)
		2024/11/19	(朝)食パン、コーヒ(米)味噌汁(小松菜、豆腐、しめじ、しめじ)、フレッシュカブ、納豆、しらす、キュウリ、ウィンナー	ウィンナー、納豆、フレッシュカブ、カニカマ、プロトマト、ちくわ、キュウリ	お好み焼き(イカ、エビ、キャベツ)、キュウリ
		2024/11/20	(朝)食パン、コーヒ(米)味噌汁(豆腐、タマネギ、えのき、にんじん)、かまぼこ、ウインナー、キュウリ、白米	カニカマ、キュウリ、冷凍のソースカツ、ウインナー、豆腐	(朝)豆腐(ネギ、ショウガ、豆腐)、リンゴ(米)お弁当(購入品)
		2024/11/21	ND	餅、だし巻き卵、コロッケ(購入品)、きゅうり、ミニトマト	ジャガイモ、魚、味噌汁(にんじん、湯揚げ)、昨日の購入弁当の残り、プロコリーマソース炒め、卵(朝)カツラメ、白米、プロコリーマソース炒め、魚、味噌汁(にんじん、湯揚げ)
		2024/11/22	(朝)食パン、コーヒ、キュウリ(米)サラダ(キャベツ、キュウリ)、しりしり(にんじん、卵)、味噌汁(豆腐、ワカメ、えのき)、ちくわ、白米	ちくわ、キュウリ、魚、味噌汁(にんじん、湯揚げ)、しりしり(にんじん、卵)、白米、味噌汁(豆腐、ワカメ、えのき)	うどん(そば、海苔、卵、ネギ)、魚(焼、納豆)、鶏、にんじん、湯揚げ、しりしり(にんじん、卵)
		2024/11/23	(朝)ソーセージ、コーヒ、食パン(米)うどん(そば、海苔、卵、ネギ)、サラダ(カニカマ、しらす)、ソーセージ、味噌汁(豆腐、白菜、タマネギ)	魚	魚
2024/11/24	(朝)食パン、コーヒ(米)マカロニサラダ、味噌汁(豆腐、にんじん、白菜)、白米、フライドチキン	唐揚げお食事	マカロニの唐揚げ、サラダ(キャベツ、きんぴら)、お好み焼き		

お裾分けした。その後世帯 I の大根が育ち、大根 2 本分ほど漬け物にして世帯 I へお返しをした。世帯 B はその漬け物を気に入り、世帯 I に追加で 2 本大根を渡し、世帯 I と B の 2 世帯分の大根を漬けてもらった。このように、収穫時期のズレや農作物のとれ高に応じて、近隣住民と農作物をやりとりしていた。

店舗などに出荷する事例は A 部落ではほとんど確認されなかった。隣接する西祖谷地域に道の駅

や地元の農産物を扱う商店があるが、そこに出荷している事例は東祖谷地域内で数世帯のみである。他方で 3 世帯が農作物の売買を個人的に行っていた。たとえばジャガイモ(ゴウシイモ)が 7,000 円-10,000 円/20kg で販売されていた。3 世帯は 1 年に 1 俵(20kg)程度の量を販売していた。価格の相場は存在するが、最終的な価格は双方の交渉により決定されていた。1 世帯のみ週に 8kg ずつ約 2 ヶ月、自身が営む飲食店に卸していた事例があった。とはいえ販売量はごく少量である。

また、集落内外の世帯から個人的に農作物を購入している事例も確認できた。例えばある世帯は、他の世帯から小豆 3.8kg を 2,000 円で、ジャガイモ(ゴウシイモ)20kg を 6,000 円で購入していた。農作物の購入者は畑地を持っていないか耕作を完全に辞めた人である。購入の目的は、都市部に住む家族への贈与だった。また、自分で耕作をしている場合でも、親族に農産物を送る量が自家生産では足りない際に、近隣世帯から購入する事例も確認された。

## 5. まとめ

東祖谷地域における極小規模の食料生産者は、「自分ですべて消費するには多すぎる量」の作物を栽培していることが明らかとなった。だが、それらが販売されることはほとんど無かった。収穫された農産物の多くは、地域内外の親族や友人に贈与されていた。上記の結果から、これまでの聞き取り調査では「自身が食べるために作っている」と語られたり、認識されることが多かった農産物の半数以上が世帯や集落を越えて贈与・交換されていることが明らかになった。

このような農産物の贈与・交換に目を向けると、定年退職者による農業システムの再生産の可能性が示唆される。それは経済効果でも、自給自足神話でもない、贈与・交換のための農業実践という第三の可能性である。それは地域内部や都市住民を結ぶネットワークを形成していた。換言すれば、それは農業を継続することである種の関係人口を生産・再生産している。こうした極小規模の農業実践による関係人口の生産・再生産が農業システムの保全に与える影響を検討する必要がある。なぜなら農業システムは、農村空間を構成するさまざまなアクターによる「活動量(ナイト・合原 2021)」の総体に他ならないからである。こうした生活に

埋め込まれているために目に見えにくく、聞き取り調査でも明らかになりにくい活動を、GIAHS 保全の指標として評価する具体的な方法を検討していきたい。

## 謝辞

本研究は、公益財団法人味の素の文化センター「2022 年度 食の文化研究助成」の助成を受けて実施しました。本助成により、調査研究を進めることができました。心より感謝申し上げます。

## 引用・参考文献

岩男望 2021「世界農業遺産はどのように地域振興につながるか：徳島県にし阿波地域における農業者の農業継続意思に着目して」『農業と経済』104-114.

遠藤芳英 2021「FAO 世界農業遺産事業の概要と東アフリカとの関連」『JANES ニュースレター』29(1) : 5-6.

北野真帆 2024「小規模生産者による農業実践と世界農業遺産の保全に関する報告：徳島県「にし阿波の傾斜地農耕システム」を事例に」『農業研究』37:439-458.

北野真帆・内藤直樹 2020「人間と環境のインターフェースとしての農具：世界農業遺産・にし阿波の傾斜地農耕システムの事例から」『生態人類学会ニュースレター』26 : 6-12.

香坂玲・内山愉太 2016「世界農業遺産認定の効果と課題についての一考察：能登地域の事例より」『農村計画学会誌』35(3) : 361-364.

ジョン・ナイト&合原織部 2021「第3章人間-動物関係をサルの視点から見る」奥野克巳、近藤祉秋、ナターシャ・ファイン 編『モア・ザン・ヒューマン：マルチスピーシーズ人類学と環境人文学』以文社, 79-94.

武内和彦 2013『世界農業遺産 注目される日本の里地里山』祥伝社.

内藤直樹 2021「ジンルイガクのトリセツ：世界農業遺産が生まれる現場から」清水展・小國和子編『職場・学校で活かす現場グラフィー：ダイバーシティ時代の可能性をひらくために』昭和堂, 103-124.

内藤直樹 2024「第17章 世界農業遺産のランドス

ケープ—徳島県西部の山村景観を産業資本主義の跡地として捉える」内藤直樹・石川登編『四国山地から世界をみる：ゾミアの地球環境学』昭和堂, 273-288.

内藤直樹・石川登 2023「序（＜特集＞景観の力学を記述する：日本の山村を対象にした異分野との協働研究をもとに）」『文化人類学』88(2) : 230-242.

東祖谷山村誌編集委員会 1978『東祖谷山村誌』.

廣瀬裕一・竹村武士・尾島一史・楠本良延 2018「中山間地域の伝統的な農業システムを保全する意義」

『水土の知：農業農村工学会誌』86(11) : 985-988.

眞鍋邦大 2024「世界農業遺産 (GIAHS) における伝統性の検討」『農村計画学会誌』43(1) : 22-25.

山口創 2024「農業者は伝統的農業システムの何を継承しようとしているのか：にし阿波の傾斜地農耕システムを事例に」『農村計画学会誌』43(1) : 13-17.

山口創・高田晋史・和佐大地・尾山郁人 2024「伝統的農業システムにおける農法の変化に関する考察」『農林業問題研究』60(4) : 150-158.

Mitsubishi UFJ Research and Consulting 2022「世界農業遺産認定による地域経済効果に関する調査報告書」Yokohama, Japan, FAO. <https://doi.org/10.4060/cc0544ja>.

Parviz Koochafkan & Miguel A. Altieri 2016, *Forgotten Agricultural Heritage: Reconnecting food systems and sustainable development* (Earthscan Food and Agriculture), Routledge. 農林水産省農村振興局農村政策部鳥獣対策・農村環境課農村環境対策室「世界農業遺産とは」農林水産省、

[https://www.maff.go.jp/j/nousin/kantai/giahs\\_1\\_1.html](https://www.maff.go.jp/j/nousin/kantai/giahs_1_1.html) (閲覧日 2025/06/15)

気象庁「平年値(年・月ごとの値)京上(徳島県)」  
[https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/view/nml\\_amd\\_ym.php?prec\\_no=71&block\\_no=1252&year=&month=&day=1&view=](https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/view/nml_amd_ym.php?prec_no=71&block_no=1252&year=&month=&day=1&view=) (閲覧日 2025/06/15) .

国際連合食糧農業機関 (FAO) 駐日連絡事務所 2023

「FAO の世界農業遺産：夫婦が守り続けた雑穀を継承」,

[https://www.fao.org/japan/news/detail/fao-stories\\_GIAHS-love-and-millet-in-Japan/jp](https://www.fao.org/japan/news/detail/fao-stories_GIAHS-love-and-millet-in-Japan/jp)(閲覧日：2025/08/17)

NAITO, Naoki. TONOTANI, Azusa. WATANABE, Megumi. 2023. “Conserving a life on the crumbling land: The Dynamics of Mountain Village Landscapes as Ruins of Industrial Capitalism in Western Tokushima, Japan.” International Symposium on GIAHS and Family Farming 2023: New Approaches of Rural Development for Effective Conservation of GIAHS sites. 2023/11/28.